

令和5年3月29日（水）令和4年度第4回富山県成長戦略会議 議事要旨

<開催概要>

- 1 開催日時 令和5年3月29日（水）15：00～16：30
- 2 開催場所 県防災危機管理センター5-B研修室、オンライン
- 3 出席者（五十音順）

安宅 和人 慶應義塾大学環境情報学部教授

Zホールディングス株式会社シニアストラテジスト

高木 新平 株式会社ニューピース代表取締役CEO

土肥 恵里奈 株式会社ママスキー代表

中尾 哲雄 富山経済同友会特別顧問

中村 利江 エムスリー株式会社取締役

エムスリーソリューションズ株式会社代表取締役社長

藤井 宏一郎 マカイラ株式会社代表取締役CEO

藤野 英人 レオス・キャピタルワークス株式会社代表取締役会長兼社長

藻谷 浩介 株式会社日本総合研究所主席研究員

<議事次第>

- 1 開会
- 2 挨拶

富山県知事 新田 八朗

- 3 議事

- (1) 富山県成長戦略アクションプラン（令和5年度版）について（報告）
- (2) ウェルビーイング指標の活用について（報告）
- (3) 令和5年度の富山県成長戦略の取組みについて
- (4) まちづくり戦略PTにおける専門部会の設置について（報告）
- (5) 今後のスケジュールについて

1 開会

2 知事挨拶

前回の会議での議論、また6つのプロジェクトチームでの議論を踏まえて、アクションプランそして196の事業をつくり、2月議会で御審議をいただき、全て予算化した。

令和4年度154事業から、40余りの事業がさらに加えられた。そして、その196の中でも95の事業を重点事業と位置づけて、メリハリをつけて本県のリソースをより有効に配分することも考えているところ。

また、この戦略を着実に実行するための体制も整備をしており、2月にはブランディングの司令塔となるブランディング推進本部を立ち上げ、高木新平委員にクリエイティブディレクターに就任いただいた。

そして新年度からは組織として広報・ブランディング推進室をつくり、さらに進めていきたいと考えている。

本日の会議では、令和5年度の検討事項の整理をすること、そしてまた、前回議論になった成長戦略の効果をさらに高めるための新たな検討課題についても御議論をどうかよろしくお願ひしたい。

3 議事

(1) 富山県成長戦略アクションプラン（令和5年度版）について（報告）

(2) ウェルビーイング指標の活用について（報告）

（事務局から会議資料に基づき説明）

【安宅委員】

- ・ウェルビーイングを掲げていること自体とても素晴らしい。ただ、ウェルビーイングは根本的に主観的なもの。ポイントとして、時代によっても産業とか、仕事によっても、実は商によってすらウェルビーイングが変わるとというのが結構重要な問題。
- ・時代によって変わる話だと、今、爆速的な情報通信インフラがあったり、ちゃんとスマートフォンデバイスに対するアクセスがあるとか、チャットGPT問題等があるが、そういう端末やサービスへのアクセスの有無は、実は非常に大きく人の幸せに影響してきたりする。
- ・ウェルビーイングなオフィスに求められている要件が、産業によって結構違う。インターネット等のサイバー系の産業においては、リモートワークは当然、エンジニアとかが会社に来て島みたいところで仕事しろと言ったら、もうそれだけでみんな会社に来なくなり、辞めてしまう。楽しいオフィスじゃないと、そもそも会社に来ないみたいなのが実はあり、これは産業による違いであり、時代差みたいなものがある。さらに世代差みたいなものがあって、ここは結構大きい問題。
- ・時代によって大きく影響を受けているウェルビーイング的なものは、典型的なものはD&Iとかダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン問題。昔は男女雇用機会均等法ぐらいしかなかったが、今、ジェンダーというのは、当然LGBTQの問題まで含まれる。女性10人のところに男1人が入る時、を考えてみたらわかると思うが、男10人のところに女の人1人が入るのは、女性側参加者からしてみればどれほどウェルビーイング度の低い会議かというのは明らか。そういう残念なミーティングがないというのは結構重要。文化的なバックグラウンドや年齢、ソーシャル階層が違う人がいても苦痛とか感じない環境だと、そもそもそういうことが起きにくい。子育て世代はもちろん、それも実はソーシャルクラスによる影響が非常に大きいので、その辺をどういうふうに緩和していくかという話がすごく重大。
- ・変化に対する対応という視点・D&I的な視点・産業的な視点も必要だということと、

情報的なインフラ、施設も重要で、この辺はうまく入れておくべき。

- ・指標について、平均で見ることにあまり意味がなくて、やっぱり分布。結局、ボトムと
いうか、明らかにウェルビーイング感の持てない人がどのぐらいいるかがウォッチされ
るべき。その人たちがどの程度いるというのをとにかくウォッチし続けて、そこをゼロ
に近づける、割合を削ることこそ超絶重要。
- ・最後は、ウェルビーイングな職場とか学校等のモデルが本来必要。例えば、県庁に行く
と、何となくウェルビーイング感が漂っていて、「すごく楽しいですよ、ここ」とい
う感じになるとかモデル的なものを競ってつくる仕組みをうまく入れると、インスパイ
アされる。それをぜひ入れられるといい。
- ・デジタル庁はもともと我々のヤフーのオフィスの七、八割を吐き出してつくられたもの。
そのまま居抜きでほしいと言われた。なぜなら、官庁の普通のデザインでやると普通の
霞が関のビルになってしまうので、そのまんまのデザインのまま下さいと言われて、そ
のまんま渡した。ウェルビーイングオフィスデザインみたいな何か楽しいものをつくれ
たら、本当にウェルビーイングになってくるのかなと思う。

【土肥委員】

- ・ウェルビーイング指標のお花のデザインが、ああいうデザインで完成なのか。せっか
くなら、もうちょっと現代の人たちに受け入れられるデザインだと、みんなワクワクして
触りたくなるのかなと思う。ウェブサイトは結構いい感じに出来上がっているのに、お
花だけちょっと時代が違う感じなので、そこでもう離脱しちゃったなという印象。富山
のウェルビーイングの形を象徴するものになるのであれば、そこがすてきなものだとい
いなと感じた。ぜひデザインも御検討いただけるとうれしい。

【牧山ウェルビーイング推進課長】

- ・お花のデザインは、レーダーチャートのようなものを図表化していく、可視化していく
というところを出発点にしており、花びらが重なっちゃってちょっと見えにくいよねと
か、いろいろテクニカルな問題もあり今の形に落ち着いた。
- ・デザインに関しては、県民の皆様にも、触れ合って、ぜひ親近感を持って見ていただき
たいので継続して御意見も伺いながら、改善が図れる部分は改善を図ってまいりたい。

【中村委員】

- ・ウェルビーイングの座長として議論している中でも、例えば、「ひとり親をバックアップする富山県」という強いメッセージを発信したほうが良いという意見があって、それはいいねという話になるが、でも、ひとり親じゃない人はどうなるの？みたいな、やっぱりみんなのことは見なきゃいけないという総花的な意見も出がち。進行は難しいが、せつかくの戦略議論なので進めたい。
- ・ウェルビーイングを進める上で、全くウェルビーイングではない人が少しでも改善できるようにすることが大切。例えば女性が男性の多い会議室で発言しようとする、富山県ではお年を召した男性から「女の人は何でしゃばっとんがいね」と言われてへこんでしまうケースがある。そこでくじけて、また女性の流出につながっていくということになりかねないなと思っている。安宅さんに質問だが、このような人々を少しでも振り向かせるための方法があればアドバイスをいただきたい。

【安宅委員】

- ・そもそも男しかいないみたいな会議というのはあってはいけない。男女をきれいに分けていいのは風呂だけで、あとは混ざるべき。そこが基本であり、昭和40年代みたいな発言をする人には、ウェルビーイングブロッカーシールをぴっと貼るみたいなぐらいのことを面白おかしくやっつけていかないと。ウェルビーイングブロッカーシールが3つで、発言権を失うぐらいまで追い込んだほうが。1個でもイエローカードですよ、ニアレッドです。2回で退場ぐらいが本来正しい。イエローカードとレッドカードをばんばん出して行って、そういう人たちにフィードバックをかけないと。とにかくフィードバックが足りていない。どれほど筋違いか分かっていないということだし、その人たちに女性19人、男性1人みたいな会議に取りあえず参加してもらって、どれほどしんどいかを体験してもらうことがまず重要。

【中村委員】

- ・それはすばらしい。ぜひやっていただきたい。

【安宅委員】

- ・富山の会議では、民間だろうが何だろうが、あらゆるところでぴっと、ウェルビーイン

グに抵触していますみたいなものをばんばんやっていくと、楽しくてあっという間に改善する可能性がある。かわいいカードをきつと新平さんがデザインしてくれると思うので、よろしくお願ひしたい。

【藤野委員】

・ 県民起点の政策転換という資料について、政策をウェルビーイング視点で変えていきたいと思いますということだが、これはすごいことだと思う。今までは県職員が政策を考えていたが、県民起点の政策転換というようなことが本当にできるのか、また、それをさらにウェルビーイングの観点で政策転換していくというのは、県の運営の仕方を特にマインドから変えていくということなので、そんなに簡単にできるのか。そういう形で転換して成功した他府県や国の事例はあるのか。

【三牧知事政策局長】

・ 事務局から2点。

・ 先ほどの安宅さんの御提案だが、来年度、男女共同参画の事業で、県民からアンコンシヤス・バイアスに関する事例を募集し、官民で協力してその解消を目指すという事業を考えている。やりながら、ほかの分野にどう広げていくか考えたい。

・ 藤野さんの御指摘について、一朝一夕にできる取組みではないが、職員にウェルビーイングの考え方を入れていくことを今回のモデル事業でやっていく。ほかの自治体の事例だと、デザイン思考みたいな形でそういう考え方を入れていこうという自治体は結構あると思うが、それをウェルビーイングの文脈でやっているのは、ほかにもない。我々自身も、ウェルビーイングPTの委員の方に御意見いただきながら、しっかり取り組んでいきたい。

【新田知事】

・ このお花だが、今、ウェルビーイングアクションのサイトができた。ここで質問に答えていけば自分のお花が咲くようになっている。県民の皆さんに、まずウェルビーイングを我が事として考えてもらうための一つのツールとして、これをリリースした。

・ さらに大事だと思うのは、今、藤野さんが指摘された県庁職員の意識。今後政策を考えていくときは、全てこのお花を意識しながら考えていき、そして県民の皆さんに届けて

いく。簡単なことではないが、とても大きなチャレンジ。おっしゃるように、一朝一夕にはできない。しかし、今後、この厳しい中で、県庁が生き残っていくためには、こういう意識改革が必要だと思って挑戦をしていきたい。

【高木委員】

- ・ 県民起点の政策立案というのは本当にすばらしい。予算の配分とか、アロケーションが変わらないと、調査が調査で終わっちゃうので、すごく野心的でいいチャレンジ。
- ・ もともとの話が出たのは、藻谷委員の若年女性が流出しているワースト3の県だということから。どうしても現場では、県民一律にサービスを提供しなきゃいけないということで、全体満遍なくという取組みになるが、この戦略会議の場で、もともとの起点になった若年女性のウェルビーイングが低いのではないかという仮説から、戦略的にウェルビーイングの状態を目指して、今までやってこなかったことや、お金の使い方を変えるべきところがあれば変えること。小さい予算であっても、若年女性の起点でやることによって、今までとは違う政策が走るという事例をつくれて、ああ、そういうことなんだなというのが分かるかなと思う。それを意図的にやっていくということではできないか。

【藻谷委員】

- ・ スタートラインとして、若い人、特に女性のウェルビーイングを上げなくてははいけなくてはである。県がそのための施策をしようとする、例えば高齢男性あるいは高齢女性から文句が出るといったことが容易に予想される。
- ・ それで、どうするかというと、スタートラインとして、ウェルビーイングを年代別、性別、そして、ライフステージ別（学生なのか、進学前なのか、Uターンしてきたのか、一回も出ていないのか）に分類して統計を取るところから始めて、例えば、ずっと（県内に）いる独身の女性のウェルビーイングが特に低いですよというようなアピールをすることにより、これを重点的に対策しなきゃいけないよという方向に持っていくことが有効なのかなと思う。
- ・ そういうことを既にお考えか。ウェルビーイング指標をプロファイルごとに分けて、そのデータを使うことによって次の政策をこっちに向けて打つんですよという、県民にコンセンサスを取るということをお考えか。
- ・ ある市で公園の子供の声がうるさいと言って、結局、公園を潰すという話があった。私

は、それがうるさいのであれば、隣接する民家に防音工事をすべきであって、公園は閉鎖すべきじゃないと1人で言っていたが、ほとんど誰も取り上げない。つまり、子供が遊ぶ公園は、工場とか空港と同じで、公益性が高いので、それを我慢しろとは言わない。横の家を工事すべきと私が1人で言ったが、全然そういう議論にならない。つまり、横でうるさいと言っている子供のいない世帯のウェルビーイングが、子供を遊ばせる世帯のウェルビーイングより優先された結果になった。しかもそれは矛盾する。平均すると、ウェルビーイング的には不幸な人と幸せな人と、差し引きとんとんになってしまう。そこで、やっぱり年代別にウェルビーイングを分けて、きちんと平均値ではなくて見ないといけないという議論になると思う。その指標の活用方針をぜひ教えていただきたい。

【牧山ウェルビーイング推進課長】

- ・一朝一夕になるものではないと考えているため、まずは県庁職員の意識を変えていくということが重要と考えている。資料の18ページのウェルビーイング政策の構築事業で、一から政策を立ち上げていくモデル事業をやっていこうと思っている。
- ・県民意識調査の設問には、基本属性のほか、御家族の構成、所得帯、ペットを飼っているかとか、細かい属性を聞いており、属性ごとに切り取って傾向を見ることができる。属性ごとに解像度を上げた県民の姿を推察し、これを基に県民を起点にした政策の構成を試験的にやっていこうと考えている。
- ・ターゲットを絞り込むとどうしてもサンプルが小さくなるので、それをきちんと検証する必要があると思っている。そのため、資料右下記載のとおり、対象の方への詳細な調査等を通じて、ターゲット層がどのようなニーズ・課題意識を持っているかお諮りして、それを左側に記載している複数の関係課との対話・協議において、該当カテゴリーの県民の方の思い、ニーズを真剣に考えて政策立案をテスト的にやっていく。
- ・これは最初の一步だが、こういう過程を積み重ねることで県庁全体のマインドが変わって、県庁職員が県民皆さん一人一人の幸せの形を想像しながら政策を打っていく、そういった姿を目指したい。

【藻谷委員】

- ・よく分かった。
- ・1点だけ、先ほど安宅さんがおっしゃったようなことだが、平均値を出すとして、それ

と別に、一定点数、満足度の点数が3点以下の人が何%いたという、ボトムの絶対評価で一定以上満足水準が低い人が全体の何割いたというのも併せて数字を取っていただくだけで、その話がだいぶ具体的になると思う。その点も御提案したい。

【安宅委員】

- 出ていくこと自体を問題視するべきではないと強く思う。それは間違っている。入ってくる人とのネットで見るとべきだし、出ていく力があるということ自体は何も悪くなく、そもそも首都圏みたいなのと富山みたいなのでは土地のロールが全然違う。東京は人口の1割ぐらいが学生。そこに主要な教育機関のかなりの部分が寄っている、大阪と京都にみたいなのもあって、そこに出ていくことの一体何が悪いのかみたいな話がある。大都市はそういうロールであって、何も問題はない。そこを問題視するのは絶対にやめたほうがいい。
- あくまでネットで議論するべきであって、私の周りの中になんかエッジな女性が結構いるが、やっぱり富山県というのは、特に大人の女性にとっては結構評価が高い土地で、「安宅さん、そんなにぼろくそに富山のこと言わないでください」と僕は、よく言われる。ファンがいっぱいいる。だから、そういう問題じゃない。出ていくことではない議論をしなくてはいけないし、むしろ出ていく力がある人を育てられたことを誇りに思うべき。
- 知的生産をしたい人にとっては、やっぱりどうしても巨大都市に行かざるを得ないというのは世界中どこに行っても事実である。だから、年齢よりもそういうことをやりたい人は、そういうところに行っているいろんな人と出会うしかない。本当に疎な空間とは言わないが、地方文化でそのようなものは、基本的には生まれにくいのが全世界的に共通の事象。だから、育った人が戻ってくるという空間にうまくしていくかどうかという話であって、そういう視点で考え直すというのは、とても重要。
- ここを大都市のようなロール空間にするとしたら大都市にしなきゃいけない。問題が全然違う話になってしまい、解けなくなるので、解けるようにしないと結構厄介。大都市のような刺激がないとか、数多くの面白い人と交われないとか、派手派手しく、いろいろ面白い空間がないとあって、そういう話で行っていたらこの話は問題が解けなくなる。
- 結局、僕もそうやって出ていった人間だが、しょうがなく出て行っている。別に富山の飯がまずいとか、そういうことではない。人が悪いとかでもなく、いじめなどの問題では

なくて出て行っているのです、全然違う。

- ・第二に、先ほどの分布の話は本当に重大で、藻谷さんから補足いただいて本当にありがたいが、例えば、私は全部の授業で満足度、理解度、分からなかった点、その他コメントについてのアンケートを毎回取っている。他に聞いたことがないが、毎コマ取る。そうすると、例えばこういうのが出てくる（図を例示）。これは僕が前学期にやった最後の講義の実データだが、ここの人間の数を問題視しろということ。この分布の形を見れば分かる。たまに「とても満足」と「満足」が割と並ぶときとかがあって、何でそんな低いんだろうと。普通に考えたら低くないが、僕は問題視していて、みたいなことで毎回改善ループを回している。このように、平均というのはあんまり意味がなくて、分布の形がすごく大事。下の人がどのぐらいいるかが重要。
- ・とある大きな家電会社の未来の定番づくり検討の委員を最近行ったところ、そこの最後のセッションの評価が3.75という評価で「高いです」と事務局からは言われた。こんな低いセッション評価を受けた記憶がこれまで一回もないと言った。理解できないほど低いので、分布を見せてくれと言った。それは私が出ていた部分だけでなくイベント全部に対する評価で、しかも回答者がごく一部だった。なので、平均を見るのはいいけどぐらいのつもりで見なくちゃ駄目で、回答者が十分偏らずにいるかと分布の形をよく見なければ駄目。
- ・第三に、どういう人か、何をやろうとしたか、どういう仕事をやっているかによって、ウェルビーイングに求めるもの・要求水準が結構違うということ。もし富山が本当にサイバー的に、シリコンバレーみたいなものを目指すとか言ったら、本当に解き放たれていて、スーツの会議なんかゼロに近づけなきゃいけない。ここで藤井さんまでもがネクタイをしていることは問題視するべきであって、し慣れないネクタイをしなきゃいけないこの会議は一体何だということ、私は官邸の会議に行ってもジャケットしか着ていないのに、何で藤井さんはネクタイしているのかと、いろいろ思う。
- ・どういう人を主語に、ということで、今までのコンベンショナルではない産業の人とか、クリエイティブなことをやっている人たちを主語にしたときに、どこまで受け入れられるのかということやうまく入れないと、意外といいですという自己満足的な評価の嵐になって、全然前へ進まない。だから、富山の活性化のために必要と思われる面白い人たちにとってのウェルビーイングをうまく見つけるのが相当に重大だと思う。
- ・県内で安定している方は、順応されているというか、愛を持って全てを受け入れている

方なので、愛を持って受けている方は当然、愛があり過ぎて評価が甘いから、改善されない。なので、取り込みたい方々をどうするかというのが大事。愛がある人は何にも悪くないが、愛がある人だけと会話していたら、家庭内会話みたくなっちゃって前へ進まないで、外に触れようというのが結構重要。

【藤井副座長】

- ・分類、分析に関していろいろ試みるつもりであるという点について、前回会議でも、本日欠席の齋藤委員が、そのあたりの数字をきちんと見ていこうとおっしゃっていたと思うので、ここは大切にしていきたい。

【牧山ウェルビーイング推進課長】

- ・データの使い方について補足をさせていただく。平均を取るというお話について、ある属性の方々を集めて平均を取るという見方も当然できるが、非常に細かくデータを捕捉しているので、その中に非常にウェルビーイング度の低い方がどの程度いらっしゃるかということも併せて捕捉できるような形を取っている。
- ・施策の展開に当たっては、そういった方々にもきちんと届くような政策をつくっていくことと多様性への対応が非常に重要になってくると思っている。きめ細かな対応をしていくに当たっては、デジタルの活用が非常に重要なキーになると考えている。
- ・県からの施策情報のプッシュ配信といった取組みを活用しながら進めていきたい。

【高木委員】

- ・まちづくりプロジェクトチームで話しているメンバーというのは三、四十代が中心で、富山のあちこちの市町村で面白い、外からわざわざ来たくなるような場所をつくったりしているような人たち。その話を聞くというか経歴を追うと、やっぱり一度東京とか海外に出ていて、30代ぐらいになって1回富山に戻ってきているという人たちばかり。ずっといたという人はその中にはなくて、基本的には1回出て戻ってきている。しかも、みんな同じような年齢のタイミングで戻ってきていて、そういう人たちが富山を面白くするんだといった仮説を持って、そこに何があれば、もっとそういう人たちとの関係人口を増やすことを加速させられるのかとかは、仮説立てて考えていくというのをやったほうがいい。

- ・大学生の段階で積極的に関わってもらうことは結構難しいような気がしていて、適切な関わり方というか、関わり機会のあり得る人材が要るのかなと思ったので、そういうのを考えていきたい。

【安宅委員】

- ・今のウェルビーイングのただ数値だけじゃなくて、ここのお勧め意向というか推奨意向を取っておいたほうがいい。自分みたいな人に勧めるかというのを取り続けるのはめちゃくちゃ大事。長い間マーケティングをやっていて、やっぱり満足度よりも推奨意向のほうがよっぽど効くので、市場シェア等に。よくネット・プロモーター・スコアというベイン・アンド・カンパニーがつくったものが使われているが、あのNPSでいいので、推奨意向的な指標は結構重要だと思う。

(3) 令和5年度の富山県成長戦略の取組みについて

(4) まちづくり戦略PT における専門部会の設置について（報告）

(5) 今後のスケジュールについて

(事務局から資料3、資料4、資料5に基づいて説明)

【藤井副座長】

- ・要するに、今後、このPTにおける検討の在り方と座組を改めて整理するということ。もともと成長戦略というのは新しい話だったので、検討のための組織も全部新しく一から設置して検討していた。しかし大枠の初期検討が終わって戦略が出来上がり、実行フェーズに移りつつあるものは、県庁や既存の受皿に戻して行って、そこで実務上のPDCAをまず回してもらってフェーズに移ろうと。
- ・せっかく皆さんのような有識者が入っていただいているPTにおいては、新たな課題とか、これからまた新しくきちんと本質的な話をしなくちゃいけないものに絞り込もうということだと理解している。
- ・また前回、この会議でかなり議論になった4本の横串を入れるという点についても、補足したい。人材、DX、クリエイティブ、官民連携。4本の横串ごとに新たな検討課題の場を設けるということは、いたずらに検討課題の場を増やすので、それは今までの専門PTごとにばらして引き取れという意見が前は多かったと理解している。まさにその

ようにさせていただいた。

- ・非常に丁寧な議論が必要な部分に関しては、既存のPTの下に専門部会をつくって、そこで議論すると。産業人材については新産業戦略PTでやるし、田園地域についてはまちづくりで専門部会をつくる、そういう構造の話をしている。
- ・これはいいことじゃないかなと私は思っている。令和4年度、5年度のPTに参加された方々も多分同じ感想を持っていると思うが、現在のPTは事業の細目の確認に時間をとられすぎている。今日の冒頭でも、アクションプランで196事業をやるとの紹介があった。実際に今までPTは、そのアクションプランを全部見ている。しかし、限られた時間で、有識者の方々がそんな何十もあるスプレッドシートをいきなり見せられて、だーっとコメントを入れていくという作業は、有識者の役割と恐らく合わないフェーズに入ってきている。そういう財務省主計局のような仕事は県庁のプロの方々にお任せして、我々は本質的なところを議論できればと思う。

【島田戦略企画課長】

1点補足すると、テーマ1の検討については新産業戦略PTの中で議論いただき、専門部会の立ち上げは、まちづくり戦略の田園地域のみとなっている。

【安宅委員】

- ・今あった話自体は全部すばらしいと思うし、風の谷はもちろんがんがん有志の皆様と進める所存。
- ・提案だが、今、私が訪問している会議で、県庁のオフィスは、霞が関もそうだが、非常に魅力のないオフィス。何というか、もうちょっといて楽しい空間になったほうがいいと私は思っており、少なくとも「ウェルビーイングを言っている県庁はイケてる」というふうになるというのは結構重要なんじゃないかと僕は思う。せっかく新田知事がいらして中尾さんが座長なのに、面白くないオフィスというのはつまらないと非常に思う。
- ・最近の写真がないが、例えばシリコンバレーとかに行くと、何かこんな感じのオフィスでみんな働いている。打ちっ放しの（コンクリート）、これを生かしながらやっている。フリーアドレスのところも多いし、みんな楽しくやっている。別にこれらのオフィス空間をつくるのは、さして金がかかるわけじゃなくて、ほとんどアイデア一発みたいなのところがあって、そういうふうな空間づくり、空間を楽しくするイニシアチブみたいなもの

のをどこかうまく埋め込めたりすると、意外と外見上すごくいいと思ったのが1点。

- ・2つ目は、例えば井波にしても岩瀬にしても、非常に面白い動きがあってすばらしいと思うが、結局、先ほどの高木新平さんの話につながるのだが、外へ行って面白い視点なり感性を持った人が戻ってきて何かやるか、外にいる面白いわけの分からない人がやってきて何かやるというやつの掛け算の繰り返し。そういうわけの分かんない人ウェルカムが本当に面白くなっていくかどうかの勝負。富山にいる方々はみんな善良な方々だが、そのままだったら変容の衝撃が足りないので、その変な人を寄せる重力場をうまく形成するためのイニシアチブを、うまく幾つか埋め込めないかなと思う。
- ・典型的なのはアーティスト・イン・レジデンスみたいなやつ、あれもやればいいけど、それだけじゃない。とにかく変な人が来るといいことがあるみたいな居場所がいろいろあって、1週間か2週間行ってみて、楽しければステイしていただきたいなものも、うまくできると、結構、まちなんか空間がよくなって、結果的にウェルビーイングがよくなると思う。わけの分かんない人たちが入り混じっていることによって。その辺のやつは、多分今のウェルビーイングイニシアチブのスコープから外れているのではないかと思うが、意外と大事。人間が日頃いる場所をびよんとやるのと、変な人がいろいろいるということ。どんなにおいしくても、毎日かっぱえびせん食べてたら飽きる。食べ飽きないと言っても、かっぱえびせんを10袋開けたら、どんな人でもしばらく食べられなくなる。だけど、いろいろ食べているから、かっぱえびせんは食べ飽きない。だから、いろんな人がいるって、やっぱり大事。

【高木委員】

- ・今の安宅さんの話、本当に同意。僕も東京にあるNEWPEACEの会社のオフィスは、公園をコンセプトにしているすごく自由な空間になっていて、こんな遊びの空間みたいな感じ。それはさておき、何かこういう場所があるといいなと思っていて、県庁も上のほうに若干そういう感じの空間があったが、もっとそういう場が広がればいい。
- ・まちづくりPTから派生したしあわせデザインで、ハードは担えないが、ソフトは担えるかなと思っていて、簡単にシェアさせてもらいたい。
- ・関係人口の窓口が必要という点で、関係人口が何で大事なのかというと、「これがイケてるよ～」と情報が都会から地方に入ってきて、「何かがありそう……！」と魅力が気になって外に出ちゃって、保守的な人が残るのが地方で、革新的な人が集まり、ちょっと言い

方はあれですけど、変化が起き続けるのが都会で。

- ・でも、本当は価値を出している可能性というか、余白がすごくあるのが地方で、過剰に競争があるのが都会でとなったときに、ここに面白さを感じているのが地域プレーヤー。まちづくりPTで入っている人たちはこういう人たちがいて面白いよねというので、関係人口はその逆の流れを生むことだなと思っている。都会にはない何かを求めて、こんな面白いことが起きたんだって、その人たちが体験を起こしていくことをやると。そういう価値やコミュニティーをかき回すことで、富山の血流をよくするようなことができないかなと。
- ・しかし、各地域プレーヤーは、一人一人が自分たちの地場でやっていることがあるので、受皿となって一人一人がアテンドすることはなかなかできないので、このしあわせデザインという組織をつくって、起業家とかクリエイターとか、もうちょっとわけ分かんない富山にいないタイプの人をわざわざ連れてきて、この地域のプレーヤーと、とにかく連れてくるツアーと交流させるということをやると。そして、その場に行って、どんどん話ししたりプレゼンし合ったり、そういうことをやるということができないかなと思っている。
- ・これまでの地域活性は、どちらかというところあるものを見せていくものだったが、これからの地域づくりというのは、どちらかというところ未来の可能性に関わってもらおうという関係づくり。このしあわせデザインという組織をつくったら、富山のいろんな地域プレーヤーとタグを組んで、とにかく東京とか海外から面白い人を連れてきて、異分子を送り込むという、それで交流しまくるというソフトはつくりたいなと思っている。
- ・それができると結構面白くなるのかなと思うので、入り口は担いつつ、その後の仕掛けをよりどう拡大するかとか、あと、それを県とかも含め、箱があるとより加速していくのかなと思う。

【藤井副座長】

- ・冒頭におっしゃっていた、県庁の上にもちょっとそういったスペースがあるというのは「コクリ」。コ・クリエーティブの「コクリ」という共同作業スペース、今回のまさに成長戦略で議論した県庁オープン化の結果としてそういうスペースができ、私もそこへ行かせていただいて、若手の方々と二、三時間にわたっていろいろ意見交換させていただいた。小さくても、こういった試みが県庁の中で進んでいるということはすばらしい。

- ・私自身が富山に生まれたわけでもないのに、なぜか富山に引き寄せられてきてしまったわけの分からない人間の一人かもしれないので、ぜひこういった小さな渦巻をいろんなところで起こしていきたい。

【安宅委員】

- ・新平さん、本当にありがとうございます。もう大賛成だが、これはこの間井波でやったミライフォラムでも言ったが、いろいろな疎空間の活性化の研究をやっていてつくづく分かることは、異質が混ざることがいかに重大かということ。いかに呼び込んで混ざる、混ぜると。混ぜる、混ざる系のことを中心コンセプトにうまく入れておけば、多分このウェルビーイングイニシアチブは劇的によくなる。
- ・それをうまくやらないといけない。さっきの「3.9が4になりました。おおー」みたいなやつと全然違う。そういうことじゃない。質的に空間が変わるということを多分我々はやろうとしている。富山って、もともと住んでいていい空間で有名な土地。だから、質的に変容させようというのが新田知事の想いだと思うので、「何かアップグレード感があるよね、この10年で」みたいなことを2030年ぐらいに言われたいと思うと、それ系のイニシアチブがめちゃくちゃ重大だと思う。

【藤井副座長】

- ・今回、田園地域について専門部会が立ち上がるということだが、成長戦略会議の最初の報告書には、市街地に関しても、そういったいろいろなものが混ざり合うようなハッカブルな異空間というようなことが書いてあった。私もそこに関してはかなり思いを持って書いた。ぜひ、市街地も田園都市も、そういったいろんなものが混ざるような空間ができていったらいいと思う。

【中尾座長】

来年から県庁は異質な職員もいっぱい採用すると。真面目で立派な人ばかりではなくて、面白い人、異質な人をぜひ職員も、企業も一緒だが、入れて行ってほしい。

【新田知事】

- ・私から1点御報告がある。成長戦略会議の委員を1人追加・補充させていただきたい。

D B Jにおられた吉田守一さんが本会議の委員から抜けられた。そこで、青山社中代表の朝比奈一郎さんを成長戦略会議の委員の仲間として迎え入れたい。藤井委員が、二つのP T座長に加えて、今日のように副座長も務めていただいている。藤井委員が座長をされている県庁オープン化戦略P Tの座長を朝比奈さんをお願いしたい。

- 平均を追うな、分布を見ろという、まさにそのとおり。基本的に平均をやってきたのが役所の仕事スタイルのため、なかなかのチャレンジだが、頑張っていきたい。
- 県も変わりつつある。実はちょうど昨日、インクルーシブひろばというのをオープンした。これはハンディのある子供たちもハンディのない子供たちも一緒に遊べる場所。これは多分、公園としては平均ではない。ハンディのある子が遊べるようにということで作ったが、ハンディのない子も一緒に楽しくわいわいと昨日からやっている。そんなある意味ではマジックを、これからも富山県はどんどんやっていきたい。